

一般社団法人日本カウンセリング学会第56回大会

# プログラム

カウンセリングにおける統合

〔研修会：オンデマンド配信〕

2024年7月27日(土) 13:00～8月31日(土) 18:00

〔大会：対面〕

2024年7月28日(日) 9:45～19:00

明治大学駿河台キャンパス グローバルホール

〔大会：ライブ配信〕

2024年8月 2日(金) 18:30～21:00 オープン・カウンセリング

2024年8月 4日(日) 13:00～15:00 オープン・スーパービジョン

2024年8月 16日(金) 18:30～21:00 オープン・カウンセリング

〔大会：オンデマンド配信〕

2024年7月29日(月) 10:00～9月9日(月) 18:00

一般社団法人日本カウンセリング学会第56回大会準備委員会事務局

## ● 目 次 ●

- ◆ 研修会のご案内 ..... 1
- ◆ 大会日程 ..... 4
- ◆ 大会参加の皆様へのご案内 ..... 5
- ◆ 大会準備委員会企画特別講演 ..... 松本 俊彦 ..... 9
- ◆ 大会準備委員会企画公開シンポジウム  
..... 福島 哲夫・山崎 孝明・黒沢 幸子・諸富 祥彦 ..... 11
- ◆ 大会準備委員会企画公開スーパービジョン  
..... 福島 哲夫・沢宮 容子・諸富 祥彦 ..... 13
- ◆ 大会準備委員会企画公開グループ・カウンセリング  
..... 諸富 祥彦・参加者 ..... 15
- ◆ 日本カウンセリング学会理事長講演 ..... 沢宮 容子 ..... 16
- ◆ 大会準備委員長講演 ..... 諸富 祥彦 ..... 17
- ◆ 日本カウンセリング学会賞受賞者講演 ..... 沢崎 達夫 ..... 18
- ◆ 日本カウンセリング学会松原記念賞受賞者講演 ..... 服部 典子 ..... 19
- ◆ 日本カウンセリング学会松原記念賞受賞者講演 ..... 本田 真大 ..... 20
- ◆ 56回大会会員集会 ..... 21
- ◆ 大会準備委員会企画オープン・スーパービジョン ..... 滝川 一廣 ..... 22
- ◆ 大会準備委員会企画オープン・カウンセリング ..... 富士見ユキオ ..... 24
- ◆ 大会準備委員会企画オープン・カウンセリング ..... 平本あきお ..... 26
- ◆ カウンセリング心理士会企画シンポジウム ..... 27
- ◆ 自主シンポジウム ..... 29
- ◆ ポスター発表 ..... 32
- ◆ 第56回大会後援団体・機関
- ◆ 第56回大会準備委員会メンバー

一般社団法人日本カウンセリング学会「カウンセリング心理士養成カリキュラム」準拠  
**一般社団法人日本カウンセリング学会第56回大会**  
**研修会のご案内**

配信形態・期間：＜オンデマンド配信＞2024年7月27日（土）13:00～8月31日（土）18:00  
 ＜ライブ配信＞2024年8月9日（金）18:30～21:00

研修時間：全研修コース2.5時間

研修証明書：視聴後期日までにレポートを提出した方に発行いたします。ご注意ください。

研修倫理：動画の録画・撮影・転載を禁じます。また、研修で紹介される事例にはフィクション加工を施しておりますが、内容に関する守秘は厳守願います。

**研修プログラム**

配信	コース	研修タイトル	講師
オンデマンド	1	フォーカシング指向療法 (A②：来談者中心的アプローチ)	諸富祥彦（明治大学） 櫻本洋樹（NTT東日本伊豆病院）
	2	認知再構成法の理論と実践 (A③：認知行動療法的アプローチ)	中村恵子（東北福祉大学）
	3	精神分析のエッセンス—日常臨床への「ちょい足し」のために— (A④：精神分析的アプローチ)	山口貴史（愛育クリニック）
	4	森田療法の現代的意義と実践 (A⑥：現代のカウンセリング理論)	三好真人（常葉大学）
	5	エモーション・フォーカスト・セラピー（EFT）の実際 (A⑥：現代のカウンセリング理論)	岩壁茂（立命館大学）
	6	ゲシュタルト療法の哲学・理論・技法 (A⑥：現代のカウンセリング理論)	室城隆之（江戸川大学）
	7	もめごと解決に生かすカウンセリング (A⑥：現代のカウンセリング理論)	益子洋人（北海商科大学）
	8	感情制御・ストレスマネジメントと身体心理学について (A⑥：現代のカウンセリング理論)	湯川進太郎（白鷗大学）
	9	上手にケンカができますか？—対立の解消、交渉、連携のカウンセリング— (A⑥：現代のカウンセリング理論)	益子洋人（北海商科大学）
	10	子どものこころの障害、その理解とケア (B④：発達障害アセスメント)	滝川一廣（あなはクリニック）
	11	思春期の発達の特徴と死生観 (B④：発達障害アセスメント)	伊藤美奈子（奈良女子大学）
	12	精神・心身医学の基礎及びアセスメント～対人援助に役立つ見立てのために～ (B⑤：精神医学・心身医学アセスメント)	飯田俊徳 (安曇野内科ストレスケアクリニック)
	13	実践論文の書き方—質的研究の実際— (C①：心理学研究法)	小林正幸 (NPO法人元氣プログラム作成委員会（カウンセリング研修センター学舎プレイブ）)
	14	自助グループとは何か (F①：保健医療分野のカウンセリング)	三好真人（常葉大学）
	15	マルチトリートメントを防ぐには (F③：教育分野のカウンセリング)	川上康則 (杉並区立済美養護学校)
	16	不登校の理解と支援 — 予防と社会的自立に向けて — (F③：教育分野のカウンセリング)	青戸泰子（岐阜女子大学）
	17	LGBTQ+のこころと支え—Allyとしてのカウンセラーであるために— (F⑥：コミュニティ分野のカウンセリング)	小松賢亮（和光大学）
ライブ	18	EAMA（自己探究カウンセリング） (D②：グループ体験)	諸富祥彦（明治大学） 小松賢亮（和光大学）

## 受講準備のために

### ネット環境のチェック

ご使用になりたい端末が Web 会議など可能な状態か否かを調べてください。

\*グーグル検索で「スピードテスト」と入力して検索する。

\*「インターネット速度テスト」が表示されたら、右下の（青い枠）「速度テストを実行」をクリック

\*テストの結果、可能な状態かどうかが表示される。（あくまでも目安のテストです。）

一般的に、ストレスなく通信できるのは 10Mbps（スマホは 5Mbps）～ 30Mbps 程度とされています。

インターネット環境に関する不具合は、主催者側では対応いたしかねます。  
各自インターネット環境の調整をお願いいたします。

## 参加方法について

### 【オンデマンド配信 コース 1～17】

#### 1 オンデマンド配信視聴の参加方法について

研修会に参加される方には、参加登録後、ご登録いただいたメールアドレス宛にお申込み控えメールが送信されております。Web 開催（オンデマンド配信）サイト URL を記載しておりますので、オンデマンド配信はこちらからご参加ください。

7月27日（土）13時より視聴可能となりますので、8月31日（土）18時までの期間内にご視聴ください。

#### 2 講座の資料は研修会ホームページよりダウンロードできます。（研修会時にご自身で使用される目的以外の複製禁止）

#### 3 研修会の録音・録画はご遠慮ください。

#### 4 レポート提出について

研修講座の視聴確認のために、講師から出された課題について 400 字以内でのレポートを提出していただきます。動画の視聴を完了すると、レポート提出フォームへのアクセスが可能となりますので、レポートを入力して提出してください。

レポートの提出を確認・合否判定後、修了証を発行いたします。

修了証は9月中旬以降、PDFにしてご登録いただいたメールアドレス宛にお送りいたします。

なお、学校心理士の更新ポイントを希望する人は、レポート提出時に学校心理士番号を入力してください。

\*提出可能期間 7月27日（土）13:00～8月31日（土）18:00

### 【ライブ配信 コース 18 8月9日（金）18:30～21:00】

#### 1 ライブ配信（Zoom 配信）の参加方法について

Web 開催（オンデマンド配信）サイトのコース 18 のページにライブ配信（Zoom）にアク

セスするボタンがあります。ボタンをクリックしてライブ配信にご参加ください。

## 2 Zoomでの研修会に参加される方へ

\*スマートフォン・タブレットをご使用の場合は、事前にZoomのアプリ（無料版で受講可能）のダウンロードとインストールをお願いいたします。

\*氏名をフルネーム（漢字）で表示してください

\*操作方法はZoomヘルプセンター（<https://support.zoom.us/hc/ja>）をご参照ください。

## 3 研修会の録音・録画はご遠慮ください。

## 4 レポート提出について

研修講座の視聴確認のために、講師から出された課題について400字以内でのレポートを提出していただきます。

Web開催（オンデマンド配信）サイトのコース18のページよりレポート提出フォームにアクセスできますので、レポートを入力して提出してください。

レポートの提出を確認・合否判定後、修了証を発行いたします。

修了証は9月中旬以降、PDFにしてご登録いただいたメールアドレス宛にお送りいたします。

なお、学校心理士の更新ポイントを希望する人は、レポート提出時に学校心理士番号を入力してください。

**\*提出可能期間 7月27日（土）13:00～8月31日（土）18:00**

## 領収書について

参加登録システムから直接ダウンロードしてください。

## 研修会（大会）は各有資格者の更新ポイントとして認められています

カウンセリング学会カウンセリング心理士 更新ポイント

研修会の受講者 2.5時間 1P （大会参加者 2P）

臨床心理士資格更新ポイント

研修会の受講者 2.5時間 1P （大会参加者 2P）

学校心理士資格更新B1

研修会の受講者 1P

\*今大会では、学校心理士の受講証明書は、ご請求された方のみ発行いたします。

大会準備委員会事務局にご請求ください。

## 修了証について

受講者には、日本カウンセリング学会理事長の修了証が発行されます。

・レポート提出・合否判定後にご登録いただいたメールアドレス宛にお送りいたします。

# 一般社団法人カウンセリング学会第56回大会スケジュール

2024/ 7/27～8/31	オンデマンド	研修会 1～17 コース：オンデマンド配信 研修会 18 コース：ONLIN LIVE 配信 (8/9 (金) 18:30～21:00)
--------------------	--------	---

7/27 (土) 13:00～8/31 (土) 18:00迄

受付：9:00～		9:45	10:00	12:00	13:00	15:00	17:00	19:00
2024/ 7/28 (日)	対面 明治大学 駿河台キャンパス グローバル ホール	諸富祥彦 オープニング	特別講演 松本俊彦 「助けて」が言えない ～市販薬 OD の理解と援助～ (国立精神・神経医療研究センター)	ランチタイム	公開シンポジウム 福島哲夫・山崎孝明 黒沢幸子・諸富祥彦	公開SV 福島哲夫・沢宮容子・ 諸富祥彦	公開グループ・カウンセリング 諸富祥彦	

7/28 対面の特別講演、公開シンポジウムはアーカイブ配信します。

2024/ 8/2 (金)	ライブ配信	18:30	21:00	オープン・カウンセリング 富士見ユキオ
------------------	-------	-------	-------	------------------------

2024/ 8/16 (金)	ライブ配信	18:30	21:00	オープン・カウンセリング 平本あきお
-------------------	-------	-------	-------	-----------------------

2024/ 8/4 (日)	ライブ配信	13:00	15:00	オープン・スーパービジョン 滝川一廣
------------------	-------	-------	-------	-----------------------

2024/ 7/29～9/9	オンデマンド	理事長講演、大会準備委員長講演、カウンセリング心理士会企画シンポジウム 学会賞受賞者講演、学会記念賞受賞者講演 (全て動画)
	オンデマンド	自主シンポジウム (動画)
	オンデマンド	ポスター発表 (PDF)

大会配信期間：2024/7/29 (月) 10:00～2024/9/9 (月) 18:00迄

## 大会現地参加者へのご案内

### 1 日時

2024年7月28日(日) 9:45～19:00

※受付開始は9:00より行います(※事前に申し込まれた方のみ)

### 2 会場アクセス

明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント内 1階グローバルホール

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

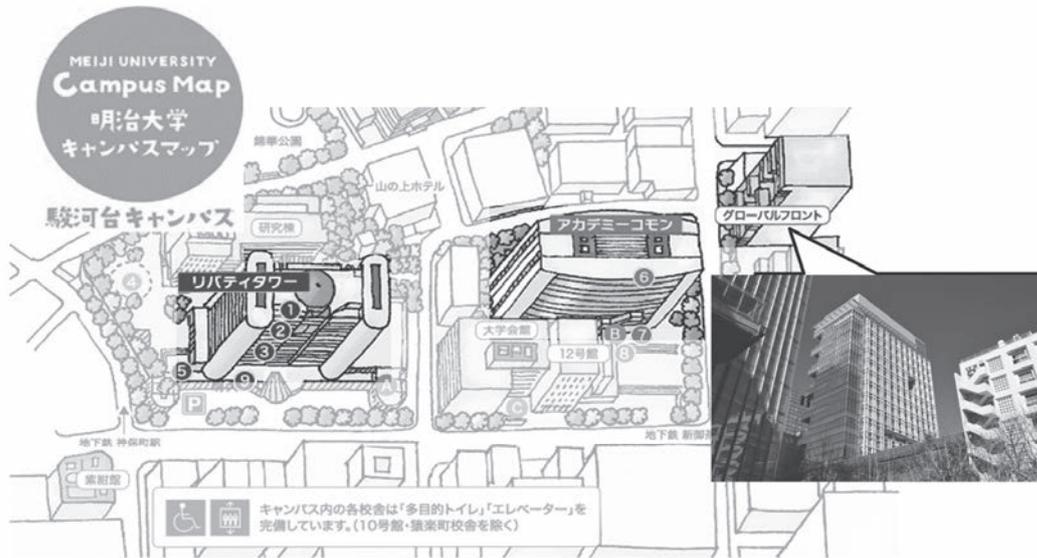


#### 【最寄駅からのアクセス】

- JR 中央線・総武線／御茶ノ水駅 下車徒歩約3分
- 東京メトロ丸の内線／御茶ノ水駅 下車徒歩約3分
- 東京メトロ千代田線／新御茶ノ水駅 下車徒歩約5分
- 都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線／神保町駅 下車徒歩約5分

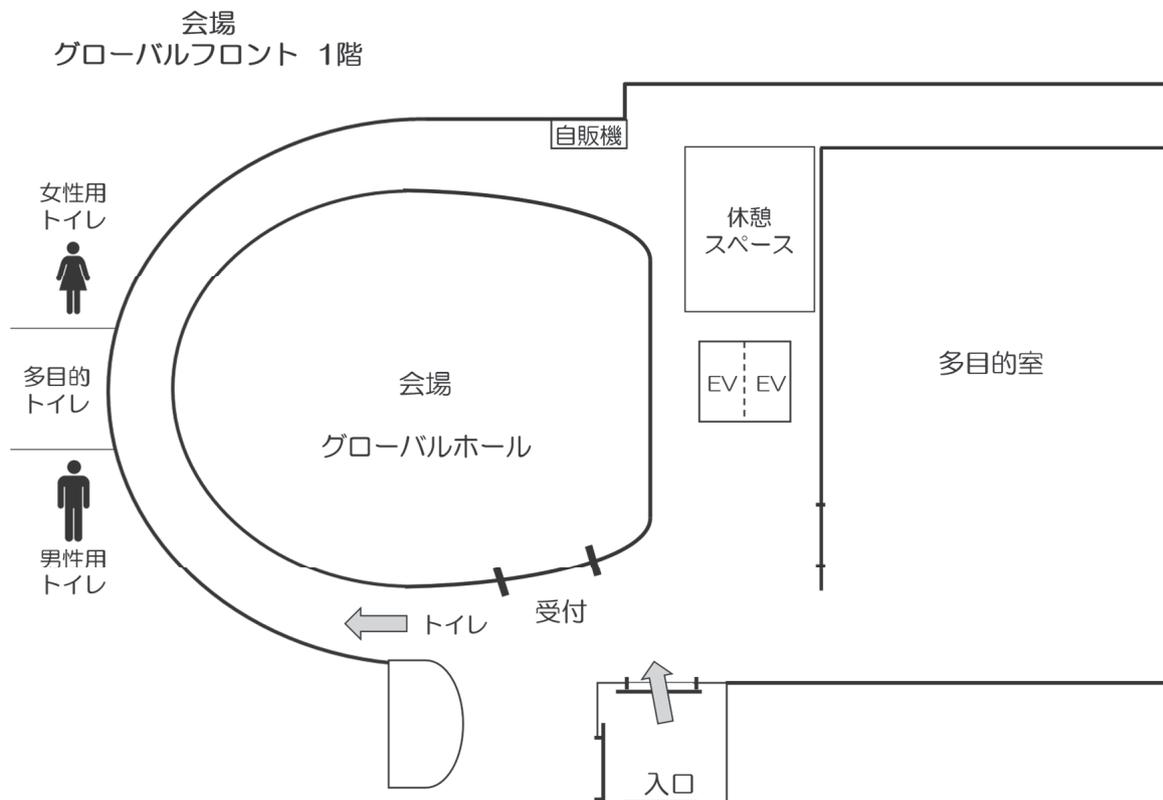
明治大学駿河台キャンパスキャンパスマップ

グローバルホール（今回会場） アカデミーコモン リバティータワー



➡ 至 御茶ノ水駅

グローバルフロント 1F グローバルホール



### 3 クローク

今大会ではクロークを設置しておりません。各自での荷物管理をお願いいたします。

### 4 昼食について

- ・講演・シンポジウムの会場内で、召し上がれません。
- ・お弁当の販売は有りません。各自ご持参くださるか近隣の飲食店をご利用ください。
- ・持参された昼食等のごみは、お持ち帰りください。

### 5 書籍販売

今大会では、書籍販売は設けておりません。

### 6 その他

- ・会場内では、ネームプレートの着用をお願いいたします。
- ・講演中の録音・録画はご遠慮ください。
  
- ・特別講演、公開シンポジウムは後日、アーカイブ配信を行います。

## オンデマンド配信へのご案内

---

### 1 オンデマンド配信視聴の参加方法について

大会に参加される方には、参加登録後、ご登録いただいたメールアドレス宛にお申込み控メールが送信されております。Web 開催（オンデマンド配信）サイト URL を記載しておりますので、オンデマンド配信はこちらからご参加ください。

7月29日（月）10時より視聴可能となりますので、9月9日（月）18時までの期間内にご視聴ください。

### 2 資料はホームページよりダウンロードできます。（視聴時にご自身で使用される目的以外の複製禁止）

### 3 動画の録画・撮影・転載を禁じます。

## ライブ配信参加者へのご案内

---

### 1 ライブ配信視聴の参加方法について

ライブ配信に参加される方には7月末頃、ZoomのURLをご登録いただいたメールアドレス宛にお送りします。

### 2 Zoom ミーティングによるライブ配信となります。

\*スマートフォン・タブレットをご使用の場合は、事前にZoomのアプリ（無料版で受講可能）のダウンロードとインストールをお願いいたします。

\*氏名をフルネーム（漢字）で表示してください。

\*操作方法はZoomヘルプセンター（<https://support.zoom.us/hc/ja>）をご参照ください。

### 3 動画の録画・撮影・転載を禁じます。また、個人情報守秘義務が課せられています。

### 4 ネット環境のチェック

ご使用になりたい端末がWeb会議など可能な状態か否かを調べる。

\*グーグル検索で「スピードテスト」と入力して検索する。

\*「インターネット速度テスト」が表示されたら、右下の（青い枠）「速度テストを実行」をクリック

\*テストの結果、可能な状態かどうかが表示される。（あくまでも目安のテストです。）

一般的に、ストレスなく通信できるのは10Mbps（スマホは5Mbps）～30Mbps程度とされています。

インターネット環境に関する不具合は、主催者側では対応いたしかねます。  
各自インターネット環境の調整をお願いいたします。

## 特別講演

7月28日(日)

10:00～12:00

対面

後日アーカイブ配信あり

### 「助けて」が言えない

#### ～市販薬 OD の理解と援助～

松本 俊彦 (国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部)



#### 講演内容

近年、精神科医療の現場では、十代の市販薬乱用患者が顕著に増加している。いまや十代で最も多く乱用されている薬物は、大麻でも脱法ハーブでも覚醒剤でもなく、市販薬という状況になっているとあってよいだろう。

市販薬乱用は、女性、それもいわゆる「よい子」に多く、伝わりやすいかたちで「助けて」が言えない人たちが多くいる。また、様々なメンタルヘルス問題を抱え、なかでも自傷や摂食障害が多い傾向がある。乱用の動機は、決して「ハイになる」ためではなく、「つらい気持ちを和らげる」という苦痛の緩和にある。つまり、彼らはそのつらい気持ちを親や学校の先生などの身近な大人に相談せず、ドラッグストアで自分の小遣いで簡単に購入できる市販薬をこっそりオーバードーズ（以下、OD）して紛らわせているわけである。

市販薬 OD もまた、リストカットなどの自傷と同様、誰にも相談できないつらい気持ちを自分ひとりで和らげる、という「孤独な対処」として行われる傾向がある。そして実際、1人の若者に自傷と市販薬 OD の両方が併存していることは全く珍しいことではない。その意味では、両者の間には共通点が多く、その関係は密接であるというだろう。

しかしその一方で、OD は自傷に比べ、行為の結果を予測しにくく、結果をコントロールすることがむずかしい。おそらく OD をくりかえす若者自身もそのことは漠然と自覚しているのだろう。実際、多くの市販薬乱用患者はいう語っている。「それ（市販薬 OD）で死ぬとは思ってないけど、万一死んでも、それはそれで構わない」と。

要するに、OD とは自傷と自殺の中間に位置する行動である。事実、自傷患者の追跡調査からは、治療経過中に深刻な自殺行動におよんだ患者の特徴として、市販薬乱用が合併していたことが明らかにされている。こう言い換えてもよい。市販薬 OD は、が生きるための自傷を自殺へと変質させる触媒である、と。

今回の講演では、最近の十代における市販薬乱用・依存の臨床的特徴を概説するとともに、治療・支援にあたってのポイントについて私見を述べる予定である。

#### プロフィール、主な著書

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター

精神保健研究所薬物依存研究部部長／同センター病院 薬物依存症センター長

1993年佐賀医科大学卒業。横浜市立大学医学部附属病院での初期臨床研修修了後、国立横浜病院精神科シニアレジデント、神奈川県立精神医療センター医師、横浜市立大学医学部附属病院精神科助手、医局長を経て、2004年に国立精神・神経センター（現、国立精神・神経医療研究センター）精神保健

研究所 司法精神医学研究部専門医療・社会復帰研究室長に就任。以後、同研究所 自殺予防総合対策センター自殺実態分析室長、同 副センター長などを歴任し、2015年より同研究所薬物依存研究部長に就任。2017年より国立精神・神経医療研究センター病院薬物依存症センター長を兼務。

精神科専門医、精神科指導医、精神保健指定医、精神保健判定医。

日本社会精神医学会理事、日本アルコール・アディクション医学会理事、日本精神科救急学会理事。

主著に、「自傷行為の理解と援助」（日本評論社，2009）、「アディクションとしての自傷」（星和書店，2011）、「自傷・自殺する子どもたち」（合同出版，2014）、「アルコールとうつ、自殺～『死のトライアングル』を防ぐために」（岩波書店，2014）、「自分を傷つけずにはられない」（講談社，2015）、「もしも「死にたい」と言われたら—自殺リスクの評価と対応」（中外医学社，2015）、「薬物依存症」（筑摩書房，2018）、「誰がために医師はある—クスリとヒトの現代論（みすず書房，2021：第70回日本エッセイスト・クラブ賞）」、「世界一やさしい依存症入門」（河出書房新社，2021）がある。

# 大会準備委員企画 公開シンポジウム

7月28日(日)

13:00～15:00

対面

後日アーカイブ配信あり

## カウンセリングの統合

司 会：諸富 祥彦（明治大学）  
シンポジスト：福島 哲夫（大妻女子大学）  
山崎 孝明  
黒沢 幸子（目白大学）

本大会のテーマである「カウンセリングにおける統合」についてさまざまな立場の論者が自分の実践をもとに「私はどう考えて、どう統合しながらカウンセリングを実際におこなっているか」を語り合います。

一人は、日本心理療法統合学会の会長でユング心理学をベースに柔軟な臨床をおこなっている福島哲夫先生。

一人は、精神分析の別手の旗手山崎孝明先生。

そして、ブリーフセラピー、ソリューションフォーカストアプローチの使い手として名高い黒沢幸子先生。

司会はロジャーズ派の私、諸富祥彦。

この四人が「実際にどう各技法を統合し実践しているか」を語り合います！

とてもエキサイティングな時間になること間違いなし！

### 福島哲夫プロフィール

大妻女子大学人間関係学部教授。成城カウンセリングオフィス所長、日本心理療法統合学会理事長、臨床心理士、公認心理師。

1990年慶応義塾大学大学院社会学研究科博士課程単位取得満期退学。

### 主著書

『新世紀うつ病治療・支援論』（編著）金剛出版 2011年

『臨床心理学入門』（共著）有斐閣 2013年

『臨床現場で役立つ質的研究法』（編）新曜社 2016年

『公認心理師標準テキスト 心理学的支援法』（編著）北大路書房 2019年

『マンガでやさしくわかる公認心理師』日本能率協会マネジメントセンター 2019年

『カウンセラーになる』（編著）日本経済評論社 2019年

『第2回公認心理師試験問題解説』（監修）学研メディカル秀潤社 2020年

『心理療法統合ハンドブック』（編）誠信書房 2021年

### 山崎孝明プロフィール

臨床心理士・公認心理師。上智大学博士後期課程 総合人間科学研究科 心理学専攻修了、博士（心理学）日本精神分析学会奨励賞 山村賞受賞（2020）。日本精神分析協会精神療法家センター研修生。

自費施設にて精神分析的な心理療法、およびPOST（精神分析的サポーターセラピー）を行う。SCと

しては、精神分析理論を背景にした親面接・教員コンサルテーション、学校組織への介入が主たる業務と考え、日々実践している。

#### 主な著書、論文

著書に『精神分析の歩き方』（金剛出版，2021）、『実践 力動フォーミュレーション入門』（分担執筆；岩崎学術出版社，2022）、『精神分析的サポータティブセラピー POST 入門』（共著；金剛出版，2023）、『当事者と専門家』（金剛出版，2024）、『週1回精神分析的セラピー』（編著；遠見書房，2024）など。

訳書に『フロイト技法論集』（共訳；岩崎学術出版社，2014）、『フロイト症例論集2』（共訳；岩崎学術出版社，2017）がある。

#### 黒沢幸子プロフィール

臨床心理士 公認心理師 目白大学心理学部 / 同大学院 特任教授。KIDS カウンセリングシステム（チーフ）。日本心理臨床学会理事、日本ブリーフサイコセラピー学会理事（前副会長）、日本コミュニティ心理学会副会長等。学校臨床を得意としつつ、幅広い臨床経験（医療・産業・福祉等）をもつ。子どもと大人、コミュニティを活かすリソース・未来志向を重視した臨床スタイルが特徴。教育相談 / カウンセリング研修・臨床心理士会 / 小児科 / 児童相談所 / 少年鑑別所等の研修等で全国に飛ぶ。

#### 主な著書、論文

「臨床がうまくなる！浅くて深いブリーフセラピー」『シンリンラボ』（連載中；遠見書房，2024）オンラインマガジン <https://shinrinlab.com/brief01/>

『未来・解決志向ブリーフセラピーへの招待』（単著，日本評論社，2022）

『思春期のブリーフセラピー—こことからだの心理臨床』（共編著，日本評論社，2022）

『解決志向のクラスづくり完全マニュアル』（共著，ほんの森出版，2017）

『やさしい思春期臨床—子と親を活かすレッスン』（単著，金剛出版，2015）

『明解！スクールカウンセリング』（共著，金子書房，2013）

『指導援助に役立つスクールカウンセリング・ワークブック』（単著，金子書房，2002）

『〈森・黒沢のワークショップで学ぶ〉解決志向ブリーフセラピー』（共著，ほんの森出版，2002）

#### 諸富祥彦プロフィール

筑波大大学院博士課程修了。博士（教育学）。千葉大学教育学部講師、助教授を経て、現在、明治大学文学部教授。日本トランスパーソナル学会会長。日本カウンセリング学会理事。専門は、①人間性心理学やトランスパーソナル心理学、中でもロジャーズやジェンドリン、ミンデルらの考えをもとにした自己探究のカウンセリング。EAMA という独自の統合的アプローチを開発・実践。気づきと学びの心理学研究会アウエアネス (<https://morotomi.net/>) にて、グループカウンセリングやワークショップを行う。②学校カウンセリング。スクールカウンセラーとして25年勤務。教師のサポートグループも実践。

#### 著書

『カール・ロジャーズ』（角川選書）『フランクル心理学入門』（角川文庫）『フランクル』（講談社選書）

『カウンセリングの理論』（上）（下）『新しいカウンセリングの技法』『自己探究カウンセリング入門

EAMA の理論と実践』（誠信書房）『自己成長の心理学』（コスモスライブラリー）『いい教師の条件』（SB新書）など多数

# 大会準備委員会企画

7月28日(日)  
15:00～17:00  
対面のみ

## 公開スーパービジョン

司 会：諸富 祥彦 (明治大学)  
スーパーバイザー：福島 哲夫 (大妻女子大学)  
沢宮 容子 (東京成徳大学 教授)

### 講演内容

ある若手の教育臨床家が事例を提出し、それを二人の先生に公開スーパービジョンをおこなっていただきます。

一人は、本学会理事長で認知行動療法の沢宮容子先生。

もう一人は、ユング心理学がベースの日本統合心理療学会会長の福島哲夫先生。

このお二人の公開スーパービジョンを体験できるめったにない機会です。

このチャンスをお見逃しなく！

### 福島哲夫プロフィール

大妻女子大学人間関係学部教授。成城カウンセリングオフィス所長、日本心理療法統合学会理事長、臨床心理士、公認心理師。

1990年慶応義塾大学大学院社会学研究科博士課程単位取得満期退学。

### 主著書

『新世紀うつ病治療・支援論』（編著）金剛出版 2011年

『臨床心理学入門』（共著）有斐閣 2013年

『臨床現場で役立つ質的研究法』（編）新曜社 2016年

『公認心理師標準テキスト 心理学的支援法』（編著）北大路書房 2019年

『マンガでやさしくわかる公認心理師』日本能率協会マネジメントセンター 2019年

『カウンセラーになる』（編著）日本経済評論社 2019年

『第2回公認心理師試験問題解説』（監修）学研メディカル秀潤社 2020年

『心理療法統合ハンドブック』（編）誠信書房 2021年

### 沢宮容子プロフィール

東京成徳大学教授、筑波大学名誉教授。博士（心理学）（筑波大学）。

カウンセリング心理士、日本カウンセリング学会認定スーパーバイザー、臨床心理士。

2009年 日本カウンセリング学会独創研究－内山喜久雄記念賞受賞

2015年 筑波大学人間系優秀教員賞受賞

2023年 筑波大学人間系優秀教員賞受賞

2007年～2010年常任理事、2010年～2018年事務局長、2018年～2022年（6月）副理事長、2022年（6月）～理事長

## 主要論文、著書

「臨床心理学と心の健康」東京大学出版会

「楽観的帰属様式の臨床心理学的研究」風間書房

「人を育む愛着と感情の力：AEDPによる感情変容の理論と実践」福村出版

『臨床実践を導く認知行動療法の10の理論：「ベックの認知療法」から「ACT」・「マインドフルネス」まで』星和書店

他、論文、著書多数

# 大会準備委員会企画

7月28日(日)  
17:00～19:00  
対面のみ

## 公開グループカウンセリング

カウンセラー：諸富 祥彦 (明治大学)

クライアント：EAMA トレーニング生

### 概要

明治大学でおこなわれる今回のカウンセリング学会。

大会委員長を務める諸富祥彦が、ステージ上で公開グループカウンセリングをおこないます。ロジャーズの方法のエッセンスをダイナミックに展開し諸富が考案した EAMA という新しいアプローチでのグループカウンセリングです。

ステージ上に EAMA のトレーニング生があがり、なまのオープンカウンセリングをおこないます。さらに会場全体に気づきの輪を広げていく予定です。

はじめての試みです。みなでいっしょにグループプロセスを楽しみましょう！！

## カウンセリングにおける統合の探究

沢宮 容子（東京成徳大学 教授）



### 講演概要

日本カウンセリング学会第56回大会のテーマは、「カウンセリングにおける統合」です。統合とは、カウンセリングの効率や効果、適用性を高めるために、様々な学派の壁を越えて、よりよいアプローチを模索する試みであり、下記のようにさまざまな形態があります（Norcross, 2005）。

- ① 技法的折衷（特定のクライアントの問題に対し、最も有効な技法を折衷的に用いる）
- ② 理論的統合（2つ以上のアプローチの要素を合成し、新たな理論的枠組みを与える）
- ③ 共通因子アプローチ（特定のクライアントを問題にするのではなく、異なる臨床家が共通して用いている核となるような共通因子を抽出し用いる）
- ④ 同化的統合（特定の心理療法理論を基盤とし、別の理論や技法を取り入れる）

カウンセリングの質を向上させるうえで、これらの統合は不可欠です。福島（2017）の言葉を借りるなら、統合とは特定の統合的アプローチを確立したり、それを忠実に習得したりするものではなく、「探求し続けるための方法」なのだと思います。カウンセリングにおける統合は、よりよい支援への道を切り開く過程であり、それはすなわち探究心を持ち続ける姿勢そのものなのです。本講演においては、私が今探求している「カウンセリングにおける統合」について、お話ししたいと思います。

### プロフィール

東京成徳大学教授、筑波大学名誉教授。博士（心理学）（筑波大学）。

カウンセリング心理士、日本カウンセリング学会認定スーパーバイザー、臨床心理士。

2009年 日本カウンセリング学会独創研究－内山喜久雄記念賞受賞

2015年 筑波大学人間系優秀教員賞受賞

2023年 筑波大学人間系優秀教員賞受賞

2007年～2010年常任理事、2010年～2018年事務局長、2018年～2022年（6月）副理事長、2022年（6月）～理事長

### 主要論文、著書

「臨床心理学と心の健康」東京大学出版会

「楽観的帰属様式の臨床心理学的研究」風間書房

「人を育む愛着と感情の力：AEDPによる感情変容の理論と実践」福村出版

『臨床実践を導く認知行動療法の10の理論：「ベックの認知療法」から「ACT」・「マインドフルネス」まで』星和書店

他、論文、著書多数

## カウンセリングにおける統合

——小さな統合と大きな統合・諸富の場合——

諸富 祥彦（明治大学）



## 講演概要

この大会のテーマは、「カウンセリングにおける統合」です。

数年前、私は、『カウンセリングの理論（上）（下）』（誠信書房）という本を書きました。

私なりに、「自己成長論」「精神力動論」「認知行動論」「システム論」のカウンセリング4大流派をどのように「統合」して使っているかを示したものです。古くからカウンセリングを学ばれている方には、國分康孝著『カウンセリングの理論』の諸富バージョンを出した、と言えば、わかってもらえるでしょうか。

この講演では、①拙著『カウンセリングの理論（上）（下）』において、カウンセリング4大理論の比較・統合をどのようにおこなったか、②私の実際の臨床において、カウンセリング4大理論をどのように駆使し統合して用いているか、を語ります。

私の臨床は、①スクールカウンセラーとしての「雇われ勤務」「日々の雑多な臨床」、②開業でおこなっている「個人セッション」「グループセッション」の2つになります。

- ① スクールカウンセラーとしての「雇われ勤務」「日々の雑多な臨床」では、クライアントのニーズに応じて「小さな統合」をおこなっています。食事の時に、スプーンや箸やフォークを使い分けるように自然と使い分けています。こちらでは、私が専門としている「ロジャーズ派固有の、深い傾聴」はあまり出番がありません。むしろ、認知行動的なコンサルテーションやソリューションフォーカスト的な面接が多いです。
- ② 一方、開業でおこなっている「個人セッション」「グループセッション」では、「ロジャーズ派固有の、深い傾聴」を全開にします。それを基盤に様々なアプローチを「同化統合」したEAMAという独自のアプローチをおこなっています。これも少し紹介できればと思います。

## プロフィール

筑波大大学院博士課程修了。博士（教育学）。千葉大学教育学部講師、助教授を経て、現在、明治大学文学部教授。日本トランスパーソナル学会会長。日本カウンセリング学会理事。専門は、①人間性心理学やトランスパーソナル心理学、中でもロジャーズやジェンドリン、ミンデルらの考えをもとにした自己探究のカウンセリング。EAMAという独自の統合的アプローチを開発・実践。気づきと学びの心理学研究会アウエアネス (<https://morotomi.net/>) にて、グループカウンセリングやワークショップを行う。②学校カウンセリング。スクールカウンセラーとして25年勤務。教師のサポートグループも実践。

## 著書

『カール・ロジャーズ』（角川選書）『フランクル心理学入門』（角川文庫）『フランクル』（講談社選書）『カウンセリングの理論』（上）（下）』『新しいカウンセリングの技法』『自己探究カウンセリング入門 EAMAの理論と実践』（誠信書房）『自己成長の心理学』（コスモスライブラリー）『いい教師の条件』（SB新書）など多数

## 学会活動と研究

### —自己受容とアサーションをめぐって—

沢崎 達夫（目白大学 名誉教授）



#### 講演概要

今回の講演では、2つの内容についてお話をさせていただきたいと思います。一点目は、日本カウンセリング学会に入会して約47年間、会員・役員として学会の運営に関わってきた歴史について簡単に触れたいと思います。二点目は、学会との関わりが深い研究並びに研修のテーマである「自己受容」と「アサーション」について、その概要をお話したいと思います。なお、実践としては、当初から教育相談、学生相談を中心としてきており、これらに関して紀要や市販の専門誌などに執筆した論文等も多いのですが、今回はこれらについては省略させていただきます。

本学会は私がこれまで最も身近に感じ、関わってきた学会です。恩師であり、本学会の事務局長でもあった元東京教育大学教授の原野広太郎先生の研究室でお世話になったことがそのきっかけですが、先輩諸氏とともに理事、常任理事、各種委員会の委員長、また第35回大会の事務局長などを務めさせていただきました。

「カウンセリング研究」には自己受容に関する研究を3本掲載していただき、また学会主催の研修会ではアサーショントレーニングの講座を長く担当させていただきました。今回はそれらの研究（研修）から見えてきたこととこの両者の関係について、これまでの経過を振り返るとともに、現在考えていることをお話しできたらと思っています。

#### プロフィール

静岡県出身。東京教育大学教育学部心理学科卒業、同大学大学院実験心理学専攻修了。

筑波大学助手、同講師、大正大学助教授、同教授を経て、2000年4月より目白大学教授、2023年3月に同大学を定年退職、現在目白大学名誉教授。元臨床心理士、元日本カウンセリング学会認定カウンセラー、専門はカウンセリング心理学。

#### 主な著書・論文

沢崎 達夫 (1984). 自己受容に関する文献的研究 (1) ——その概念と測定法について—— 教育相談研究 (筑波大学), 22, 59-67

沢崎 達夫 (1985). 自己受容に関する文献的研究 (2) ——自己受容と関連する諸要因について—— 教育相談研究 (筑波大学), 23, 43-56

沢崎 達夫 (1993). 自己受容に関する研究 (1) ——新しい自己受容測定尺度の青年期における信頼性と妥当性の検討—— カウンセリング研究, 26, 29-37

沢崎 達夫 (1994). 自己受容に関する研究 (2) ——男女大学生における自己受容の様相を中心として—— カウンセリング研究, 27, 46-52

沢崎 達夫 (1995). 自己受容に関する研究 (3) ——成人期における自己受容の特徴とその発達的变化—— カウンセリング研究, 28, 163-173

## 学生の個性やニーズに応じたキャリア支援の重要性

### —進路選択の基盤となる履修行動の研究—

服部 典子（東京海洋大学キャリア支援センター 特任准教授）



#### 講演概要

このたび、日本カウンセリング学会松原記念賞という大変榮譽ある賞をいただき、誠に光栄に存じます。これまでご指導をいただきました先生方、多くの皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。

私はこれまで、大学における学生のキャリア教育・キャリア支援に携わってまいりました。キャリア支援プログラムの実践や、学生自身が進路を主体的に考えるピア・サポートプログラムを企画・構築をしてきました。また、学生の履修や進路選択に関する個別相談（キャリアカウンセリング）を担当しています。個別相談では、履修における積極性の違いや、進路選択に対する困難さなど、学生の個性やニーズに応じたキャリア支援の実践に向き合っています。これらの実践のなかで、進路決定の課題を持つ学生は、その前段階である履修行動から課題を有しているのではないかと考えました。そこで、履修行動を、学生が自己の学習目的に沿って体系的な科目の履修計画をたてて、自主的な学習を行い、卒業に必要な所定の単位を修得するとともに、将来の進路選択をすることにつながる行動と定義して、研究に取り組んできました。

今回の講演では、大学生活の基盤となる履修行動に焦点を当て、キャリア探索と自己探索との関係、学生の自己決定性による違い等をご紹介します。大学におけるキャリア支援は就職活動の支援が目されますが、学生の個性やニーズに応じたキャリア支援の重要性を皆様と共有できれば幸いです。

#### プロフィール

筑波大学人間総合科学研究科生涯発達専攻カウンセリングコース修了。修士（カウンセリング）。公認心理師、2級キャリア・コンサルティング技能士。法政大学キャリアデザイン学部 キャリアアドバイザー、お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター アソシエイトフェローを経て、2020年より現職。筑波大学では心理・発達教育相談室 非常勤相談員、働く人への心理支援開発研究センター・ライフキャリア相談室の相談員を務めている。

#### 主な著書、論文

- ・服部典子（2014）. 学生支援における履修相談の機能と役割 —法政大学キャリアデザイン学部における履修相談の特徴とプロセスの検討を通して— 法政大学キャリアデザイン学部紀要, 11, 151-181.
- ・服部典子（2018）. ピア・サポートを活用した新たな学びの仕組み —学生が主体的に取り組むキャリア支援プログラムの開発— お茶の水女子大学高等教育と学生支援, 8, 8-15.
- ・服部典子・飯田順子（2021）. 大学生の履修行動に関する研究—履修行動尺度の作成と自己決定性による履修行動の違いの検討— カウンセリング研究, 53, 63-76.

## 援助要請研究がめざすカウンセリングのかたち

本田 真大（北海道教育大学）



### 講演概要

私は悩みの相談に関する心理である援助要請（help-seeking）の研究と実践を続けてきました。援助要請の困難さは過少性（ニーズがあっても相談しない（ためらう、できない）、過剰性（相談しすぎる）、非機能性（相談がうまくいかない）の3点に集約され、主に過少性の現象理解と促進方法に関する研究（援助を必要とする人が、カウンセリング等の援助資源につながりやすくなるための研究）が進められています。援助要請の過少性が見られる事例とは、対象者の主訴（いじめ被害、不登校等）に加えて「相談しない（できない、ためらう）こと」も重なっている事例と言えます。援助要請研究は対象者と心理支援をつなぐこと（アクセスの改善）に貢献します。

援助要請研究の社会実装の方向性は「助けて」が言えない個人が成長することと、「助けて」が届かない社会が変わることの2つです。私は前者の方向性では援助要請を扱うためのカウンセリング技法開発（援助要請に焦点を当てたカウンセリング）をめざし、最近では北海道教育委員会と協働して自殺予防教育プログラムを作成し普及啓発を進めています。後者の方向性では援助要請に優しい社会／学校（help-seeking friendly society/school）の在り方を模索しています。本講演では援助要請に関する実態と国内外の研究動向に触れ、援助要請に焦点を当てたカウンセリングを紹介します。最後に、援助要請に優しい社会／学校の在り方を考えます。

### プロフィール

北海道教育大学教育学部函館校准教授、博士（心理学）、公認心理師、臨床心理士、学校心理士スーパーバイザー、認定行動療法士。北海道教育委員会の北海道幼児教育推進センターでエリアスーパーバイザーを務める他、スクールカウンセラー、精神科クリニックの心理士として主に幼児期から青年期の臨床活動を行う。

### 主な著書、論文

本田真大・新川広樹（2023）. 児童青年版援助要請認知尺度，児童青年版援助要請スキル尺度の開発—COSMINに基づくPROM開発研究および内容的妥当性研究—教育心理学研究，71（3），173-189.

本田真大（2023）. 発達障がいのある子どものいじめ予防のための援助要請の促進 小倉正義（編著）発達障がいといじめ—発達の多様性に応える予防と介入—（pp.89-101）学苑社

本田真大（2021）. 援助要請に焦点を当てたカウンセリングの現状と課題—集団対象の援助要請への介入方法及び効果測定方法の展望—カウンセリング研究，54，73-90.

## 56 回大会会員集会

理 事 長 挨 拶 …… 東京成徳大学教授 沢宮容子

名誉会員・推薦会員報告 …… 東京成徳大学教授・沢宮容子理事長

各 賞 授 与 …… 筑波大学教授・濱口佳和受賞者選考委員長

大 会 長 挨 拶 …… 明治大学教授・諸富祥彦第 56 回大会長

次 期 大 会 長 挨 拶 …… 江戸川大学教授・室城隆之次期大会長

# 大会準備委員会企画 オープン・スーパービジョン

8月4日(日)  
13:00～15:00  
ライブ配信

スーパーバイザー：滝川 一廣 (あなはクリニック)  
司 会：笈田 育子 (NPO法人カウンセリング教育サポートセンター  
代表 カウンセリング心理士会長)

## 企画趣旨

児童臨床のレジェンド精神科医 滝川一廣先生によるオープン・スーパービジョンです。高名な伝説の滝川先生が実際にケースについて、その場でスーパービジョンをしていただきます。

「人生は一人ひとりに個別的でありしかも一回かぎりのものである。子育てとは、そうしたとりかえのきかない人生でのかかわりである。こうすればかならず OK とい模範解答はない～…」(『子どものための精神医学』P13より)。とおっしゃる滝川先生、カウンセリング/心理療法にも同じことがいえるでしょう。医学と教育両者の視点を併せ持つ滝川先生、どのようなスーパービジョンを展開して下さるか、こころがワクワクします。またとないチャンスです。皆様ライブで実際に体験し、学びましょう。

## 滝川一廣プロフィール

1947年名古屋市生まれ。1975年名古屋市立大学医学部卒業後、同精神医学教室に入局。岐阜精神病院(現・岐阜病院)に赴任。1981年名古屋市立大学医学部精神科助手。1984年より名古屋市児童福祉センターに勤務。同センターの児童相談所部門の医師および情緒障害児短期治療施設部門の長を務める。1995年東京に移り、青木病院に勤務。1999年より愛知教育大学障害児教室および同治療センターの助教授。前学習院大学教授。あなはクリニック+オリブ山病院医師。(2018年8月現在)

## 職歴

1975年 名古屋市立大学医学部精神医学教室入局  
1978年 岐阜精神病院医長  
1981年 名古屋市立大学医学部精神医学教室助手  
1984年 名古屋市児童福祉センター医務係長  
1986年 名古屋市児童福祉センターくすのき学園長  
1995年 青木病院医員  
1999年 愛知教育大学教育学部障害児教育講座助教授  
2002年 愛知教育大学教育学部障害児教育講座教授  
2003年 大正大学人間科学部人間福祉学科臨床心理学専攻教授  
2009年 学習院大学文学部心理学科教授  
2018年 学習院大学文学部心理学科教授を定年退任  
2019年 那覇で「あなはクリニック」を開業

主著

『家庭のなかの子ども 学校のなかの子ども』岩波書店 1994 年

『不登校を解く』（共著）ミネルヴァ書房 1998 年

『教育という「物語」』（共著）世織書房 1999 年

『〈こころ〉の定点観測』（共著）岩波書店 2001 年

『「こころ」はどこで壊れるか』（共著）洋泉社, 2001 年

『「こころ」はだれが壊すのか』（共著）洋泉社, 2003 年

『「こころ」の本質とは何か』筑摩書房 2004 年

『新しい思春期像と精神療法』金剛出版 2004 年

『子どものための精神医学』医学書院 2017 年

他多数

# 大会準備委員会企画 オープン・カウンセリング

8月2日(金)  
18:30～21:00  
ライブ配信

カウンセラー：富士見ユキオ(プロフェッショナル・サイコセラピー研究所(IPP))  
クライアント：希望者

「あの男」が日本カウンセリング学会にやってきた。

現代日本のセラピストの鬼才・天才の名を欲しいままにする心理療法家・富士見ユキオ氏によるオープンカウンセリングがおこなわれます。

希望者の中からクライアント役を募ります。

富士見先生の見事な腕さばきに驚嘆すると共に、カウンセリングやセラピーでもっとも大切なものは何であるか、確認する貴重な機会となるでしょう。(文責 諸富)

## 富士見ユキオプロフィール

「開業」カウンセラーとして34年目。

「プロフェッショナル・サイコセラピー研究所(IPP)」共同代表、

クライアントとセラピストとの右脳間交流、身体性、関係性を大切にするプロセス指向セラピスト、「脳の健康」に着目するカウンセラー、ニューヨーク州立大学卒業(人類学部)、米国トランスパーソナル心理学研究所に、日本人として初めて留学する。MA(修士)、認定プロセスワーカー(日本にプロセスワークを紹介、導入する)。

専門は発達性／複雑性トラウマ、解離、重篤な各種依存症、共依存、各種パーソナリティ障害、双極性障害、軽度の統合失調症、教育分析、スーパービジョン、開業支援、医師や弁護士との連携

## 主な著書、論文

### 単著

『痛みと身体の心理学』(新潮社)共著

『ユング派の臨床』(金剛出版)

『意識と無意識 臨床の現場から』(人文書院)

『本当の事業承継』(生産性出版)他

### 編著

『プロセス指向心理学入門：身体・心・世界をつなぐ実践的心理学』(春秋社)

『現代のエスプリ トランスパーソナル心理療法』(至文堂)他

### 訳書

A. ミンデル著『シャーマンズ・ボディ』(コスモス・ライブラリー)

A. ミンデル著『身体症状に宇宙の声を聴く』(日本教文社)他

### 論文

「昔話「こぶとり爺さん」に見られるプロセスワーク」(人間性心理学研究, 2003年)

「プロセスワークにおける身体—関係性におけるドリームボディ, 「間身体」の立脚点から」(プシケー, 2005年)

「The Tao of Conflict Resolution in Family Business」(FFI Practitioner article, 2021)

「Ghosts and Possession in the Family System」(Family Firm Institute, 2024) 他

# 大会準備委員会企画 オープン・カウンセリング

8月16日(金)  
18:30～21:00  
ライブ配信

カウンセラー：平本あきお（メンタルマネジメントスクール）  
司 会：諸富 祥彦（明治大学）



## 概要

日本で一番有名なコーチと言えば、そう、平本あきおさんです。

エグゼクティブ・コーチとして、有名俳優やオリンピック選手のコーチ、一流企業の管理職のコーチなどを数多くおこなひ、日本中に多くのファンがいる平本さん。アドラー心理学の旗手でもある平本さんが、もっとも得意とするオープンカウンセリングをおこなってくれます。

希望者の中からクライアントを募ります。

平本さんの華麗な腕さばきにうなること間違いなしです！

## 平本あきおプロフィール

メンタルマネジメントスクール代表

エグゼクティブ・カウンセラー

東京大学大学院教育学研究科修士号、米国アドラー大学院修士号（Adler University M.A. in Counseling Psychology）取得。

人が幸せになる方法を10歳から探し求め、世界中の心理学、カウンセリング、コーチング、瞑想を学び、30年以上かけて独自の手法を開発。オリンピック金メダリスト、メジャーリーガーなどのトップアスリートや有名俳優、上場企業経営者をサポート。これまで11万人以上に研修。

## 主な著書 \*共著を含む

子どもが一瞬で変わる「言葉かけ」－アドラー心理学×幸福学が教える（ワニプラス /2023年1月）

アドラー心理学×幸福学でつかむ！幸せに生きる方法（ワニプラス /2021年7月）

あなたの中の「宝」を掘り起こす！引き出す力（ビジネス社 /2021年2月）

なぜ、あなたのやる気は続かないのか（青春出版社 /2017年1月）

聴くだけで集中力が高まるビジネス瞑想CDブック（きこ書房 /2016年6月）

成功するのに目標はいらない！（こう書房 /2007年7月）

## カウンセリング心理士シンポジウム

### 『死ぬることとカウンセリング』

司 会 者：筧田 育子 (NPO 法人カウンセリング教育サポートセンター  
代表 カウンセリング心理士会長)  
シンポジスト：井ノ山正文 (教育環境研究センター カウンセリング心理士  
会副会長)  
福井みどり (一般財団法人ライフ・プランニング・センター)  
村里 忠之 (宮カウンセリングルーム/村里心理療法研究所)  
指定討論・進行者：諸富 祥彦 (明治大学)  
企 画 者：筧田 育子  
井ノ山正文

はじめに

皆様、自分の「死ぬること」を考えたことがありますか？

皆様、親しい人の「死」をどのように受け止めていますか？

皆様、「死」は怖いことですか？嫌なことですか？

私筧田は21年前、連れ合いの葬儀の喪主として「筧田敏夫は78年の人生をしっかりと生き、今、死をもってその生を完結しました。」知的でちょっと強がりな挨拶をした。悲しいけれども彼の死を肯定的に受け止めたかったし、我ころが折れるのを防ぐためでもあった。そして、生の完成は「死」失くして成り立たないとも思っていたからである。

近年、「死」を不吉なもの、良くないものとして忌み嫌い子どもたちに家族の、祖父母の、「死」に立ち合わせない、見せない傾向があるようだ。

しかし、私たちは、そろそろ「死」を目前に据え考えなければいけない時に来ている。人生100年時代、生は長くなりその分老化のプロセスを歩む時も長くなっている。そして、どのような結末になるかわからないが、誰にでも必ず「死」は訪れる。

「死」は不吉でも嫌なものでもなく、人間には「死ぬこと」が必要なのだ。いかに上手に死んでいくかが。そのような「死ぬること」にカウンセリングは何ができるのだろうか。皆さんで考えてみたいと思う。

#### 1. シンポジストの紹介

##### ① 井ノ山正文

教育環境研究センター代表、日本カウンセリング学会カウンセリング心理士会副会長

教員経験が長く、実践体験に基づいた取り組みと研究を展開している。また、ジョン・カバット・ジン氏との出会いからマインドフルネスについての研究を行っている。

##### ② 福井みどり

一般財団法人ライフ・プランニング・センター健康教育サービスセンター副所長

日野原重明が1973年に立ち上げた同財団で高齢者の研究を長年行っている。現在、新老人の会東京で高齢者の方と絵本を読み合う会を主宰している。

③ 村里 忠之

宮カウンセリングルーム / 村里心理療法研究所 カウンセラー / セラピスト。博士 (学術)  
早稲田大学大学院で鈴木成高に西洋歴史学を、川原栄峰に西洋哲学を、学習院大学院で  
村瀬孝雄に臨床心理学を学ぶ。元帝京平成大学臨床心理学科准教授。  
村瀬孝雄にフォーカシングを、ジェンドリンに TAE を学ぶ。

④ 指定討論者 (進行役) : 諸富 祥彦 明治大学文学部教授

プロフィール : 大会準備委員長講演参照

⑤ 司会者 : 笈田 育子

NPO 法人カウンセリング教育サポートセンター代表 カウンセリング心理士会長

短期大学舞踊専攻科を卒業後、FM 東京「ステレオサンデーミュージック」、TBS ラジオ「ムッシュ & カンパニー」等のアシスタント業とファッションモデル業を生業とした。30 代人生の岐路のとき「カウンセリング」に出会い学び始め、生きることが少し楽になった。その後、本学会の資格などを取得し心理領域で 40 年活動を展開している。目白大学心理学研究科臨床心理学専攻修士課程修了。学会認定スーパーバイザー、カウンセリング心理士、臨床心理士、精神保健福祉士・公認心理師。

## 2. 話題の概要

### (1) 井ノ山正文「死から生を受けとめること」

人は生老病死に向き合うことは必然とされている。しかし、死の現場から人々は遠ざけられることで、死を身近に受け止める機会がなくなった。死にゆくさまに立ち会うことが難しくなったことで、死を非現実的な状況に置き観念化していく傾向もある。死は悲しむべきことだけではなく、生きていることの連続の中に在り、今という瞬間の意味を問うことでもあるのではないのだろうか。

### (2) 福井みどり「尊厳ある死について」

105 歳で「生きていくあなたへ」というメッセージを残し逝かれた日野原重明氏の生きざまと死に方と映画「プラン 75」に見る高齢者観と死について比較し「尊厳ある死」について考えてみたいと思います。「死を考えることは生きること」「あきらめずに生きること」「いのちの尊厳」「人に寄り添うこと」などを日野重明氏の生き方を通して皆様と考える機会になればと思っております。

### (3) 村里 忠之「サバイバーの体験とアート」

自分は今二つの癌のサバイバーとして、あと 5 年運が良ければ 10 年生き延びられるかという状態なのですが、若い頃の自意識过剩の重圧を脱落して、以前より身軽な自分が居る。もう暫く one of them の感じを生きても善いのではと感じています。また西行の「願わくば、花の下にて春死なむ その如月の望月の頃」と芭蕉の「旅に病んで 夢は枯野をかけ廻る」に「その貫道するものは一なり」を実感し、その一は言葉で語ることができず、身体知 felt sense として正確に感じられるもの、これらの詩はその実例であることを話してみたいと思っています。

### (4) 笈田 育子「「死ぬる」の思い」

「死ぬ」、「死」という言葉でなく「死ぬる」という言葉を使ったのは、続いているというか流れを感じたからである。ナ行変格活用、死ぬの意味である。つまり、「死」は生の延長上にあり、生の終着点でもあるとの意味を込めている。その現実とは老化と言われるものでもある。まさに今、その老化の過程を歩いている私は、病を得たあと我生は「生かされている」と思うようになった。そのようなことが語ればと思っている。

## S-1

カウンセリングの統合的アプローチ・EAMA の実際とその可能性  
(その2) —オープンカウンセリングの動画を見ながら語り合う—

- 企画者：田村 朋子（西宮市役所）
- 司会者：諸富 祥彦（明治大学文学部）
- 指定討論者：櫻本 洋樹（NTT 東日本伊豆病院）
- 話題提供者：加茂 貴子（ウメザワ薬局）  
小松 賢亮（和光大学現代人間学部）  
金子 英利（元公立小学校校長）  
林 陽子（学校法人 太陽学院）  
折戸瑛里佳（NEC ライフキャリア株）  
島田 友和（ワ☆ノバージョン）  
古屋 晴子（東都大学幕張ヒューマンケア学部）  
田村 朋子（西宮市役所）

## 【企画要旨】

EAMA (fully Experiencing-Awareness-Meaning Approach (体験－アウェアネス－意味生成アプローチ)) は、諸富祥彦が考案した、人間性心理学やトランスパーソナル心理学のさまざまなアプローチ、とりわけ、ロジャーズの深い傾聴をベースにした統合的アプローチである (諸富, 2022)。EAMA の特徴は、クライアントになりきって共に心の世界を体験することを通して、現前化し映し出すところにある。個人セッションであればカウンセラーが、グループセッションであればほかのメンバーも一緒にクライアントになりきって「一つ」になり、その心の世界を「共に体験する」。クライアントの内的体験のエッセンスを、あたかもそれが今、その場で起きているかのようにありありと「現前化」し、「映し出し」て、共に体験し、体験しつくす。そうすることで、クライアントは自分の内側深くに入って自分の体験しつつあったことをもっとじゅうぶんに体験する。カウンセラーやほかのメンバーと共に、よりじゅうぶんに体験されたときクライアントの内的プロセスは一歩前に進む。新たな展開が生まれ、体験のプロセスは前進的に展開していく。本シンポジウムで、EAMA の概要等とグループセッションの実際をご覧ください。

S-2

## カウンセリング、心理療法のアジアからの発信 (5)

- 企画者・司会者：林 潔 (Australian and NZ Student Services Assn)
- 司会者・話題提供者：竹内 啓恵 (東京農業大学地域環境科学部 樹づ木合同会社)
- 話題提供者：加藤 博己 (駒澤大学文学部)
- 李 同帰 (北京大学心理学与科学院)
- Nagang bilinge (内モンゴル自治区中蒙医学研究院)
- 呉 紅雲 (中国人民大学)
- 指定討論者：高橋 良博 (駒澤大学文学部)
- 高橋 浩子 (山手教育研究所)

## 【企画要旨】

アジア地区に根ざした、カウンセリング、心理りょうほうを随時照会している。

今回の内容は、禅、森林カウンセリング、そして面接と併せて自然環境も活用し、心理的アプローチと医学との統合の取り組みである中国の蒙医の実践例について紹介する。

## いじめ・自死第三者委員会における心理職の役割

- 企画者・司会者・話題提供者：武田 明典（神田外語大学外国語学部）
- 話題提供者：武田 明典（神田外語大学）  
都丸けい子（聖徳大学）  
小島 千鶴（船橋本町法律事務所）  
小柴 孝子（文教大学）
- 指定討論者：嶋崎 政男（神田外語大学）  
鈴木 明美（帝京平成大学）

### 【企画要旨】

近年、学校における児童生徒間のいじめ問題や教員による児童生徒に対する不適切な指導（例：過度な指導による“指導死”など）により精神的なダメージを受けて不登校に陥ることや転校を余儀なくされるケース、さらには、自死に至るなどの深刻なケースが報告されている。これらに対処するため、当事校管理職の判断、あるいは、児童生徒の保護者からの要請により、客観的・公平な立場である外部の専門家による第三者委員会が立ち上げられる。

本学会員として、今後の社会的ニーズに対応するために、実際の委員会経験者による課題事項や学校関係の問題に対処する弁護士など、多職種の役割を文科省の推進する“チームとしての学校（チーム学校）”の視点においても、本テーマを理解することは重要である。

本シンポジウムでは、いじめ・自死による重大事態調査のための第三者委員会設置に関して、一連の進行プロセスを解説し、心理職の具体的な活動報告、弁護士など多職種との連携、そして、委員会報告後のいじめ被害・加害児童生徒への支援方法についての報告をもとに、学校関係者および委員がより充実した支援を行えるように、特に、心理職の課題や他職種との連携について検討を行うことをねらいとする。

P

- ▶ P-1      **中学校での特別支援教育の事例報告**  
 教育社会的なアプローチから特別支援教育に関する検討  
 -----  
 瀧    光彦（東京学芸大学教育学部）  
 茂呂 輝夫（大和大学社会学部）
  
- ▶ P-2      **高校での特別支援教育における通級指導の事例報告**  
 — 教育社会的なアプローチから通級指導の在り方に関する検討 —  
 -----  
 茂呂 輝夫（大和大学社会学部）  
 瀧    光彦（東京学芸大学）
  
- ▶ P-3      **発達障害様相を呈する保育者養成大学生への学外実習の支援事例**  
 自己理解を促すサポートシートの活用を通して  
 -----  
 中村麻衣子（フェリシアこども短期大学）  
 松田こずえ（武蔵野大学）
  
- ▶ P-4      **自閉症傾向と共感性との関連**  
 内的作業モデルの対象による影響の違いに着目して  
 -----  
 木下 雅博（東大阪大学短期大学部）
  
- ▶ P-5      **発達障害特性と情緒・行動的問題の関連における級友サポートの調整効果**  
 学級集団要因に着目したマルチレベル分析による検討  
 -----  
 新川 広樹（弘前大学教育学部）  
 富家 直明（北海道医療大学心理科学部）
  
- ▶ P-6      **ADHD マスキング尺度の作成および信頼性、妥当性の検討**  
 -----  
 前田 千晴（早稲田大学大学院人間科学研究科）  
 佐々木三紗（早稲田大学大学院人間科学研究科）  
 竹田 好香（早稲田大学大学院人間科学研究科）  
 桂川 泰典（早稲田大学人間科学学術院）
  
- ▶ P-7      **浅い人間関係で用いられるスキルが青年期・高齢期における孤独感の低下に与える影響**  
 -----  
 田中 圭（聖徳大学心理・福祉学部）  
 沢宮 容子（東京成徳大学応用心理学部）
  
- ▶ P-8      **小学5年生から中学2年生におけるレジリエンススキルの性差の検討**  
 -----  
 小林 朋子（静岡大学教育学部）  
 藤原 和政（兵庫教育大学）  
 五十嵐哲也（愛知教育大学）
  
- ▶ P-9      **もめごと解決スキルはチームワークや職務満足度を促進するか？**  
 -----  
 益子 洋人（北海商科大学）

- ▶ P-10 児童のソーシャルスキルタイプと被侵害感との関連  
特別な配慮の必要性を考慮した検討  
-----  
川保 理恵 (島根大学教育学部)
- ▶ P-11 日常生活スキルが職業観ならびにキャリア・レディネスへ及ぼす影響  
-----  
飯田 都 (鹿児島県立短期大学生活科学科)
- ▶ P-12 幼児期の援助要請研究の測定方法に関するスコアピングレビュー  
-----  
本田 真大 (北海道教育大学函館校)
- ▶ P-13 若年就業者の援助要請と職場の尊厳  
-----  
道谷 里英 (順天堂大学国際教養学部)  
正木 澄江 (文教大学)
- ▶ P-14 大学生が持つ不眠症状への認識と学生相談室への援助要請意識の関連  
-----  
谷本 智佳 (福山大学保健管理センター)  
松本 明生 (福山大学人間文化学部)
- ▶ P-15 小学校教員が期待する児童のリーダーシップについての検討  
-----  
武蔵 由佳 (都留文科大学)
- ▶ P-16 小学5年生から中学1年生における不登校傾向の縦断的変化の検討  
-----  
五十嵐哲也 (愛知教育大学)  
小林 朋子 (静岡大学)  
藤原 和政 (兵庫教育大学)
- ▶ P-17 令和4年改訂『生徒指導提要』に見るこれからの教育相談  
『旧版』との比較を通して  
-----  
鈴木 聡志 (東京農業大学教職・学術情報課程)
- ▶ P-18 質の高い経験の継続を目的とした適応指導教室経営の取組  
-----  
坂詰 悦子 (八王子市立鹿島小学校内適応指導教室松の実教室)
- ▶ P-19 非行少年は変化するのか？  
児童自立支援施設入所少年の心理面の入退所時の比較  
-----  
大原 天青 (東京都福祉局)  
松浦 直己 (三重大学)  
富田 拓 (網走刑務所)  
萩生田伸子 (埼玉大学)
- ▶ P-20 不登校経験者による不登校経験の意味づけプロセスに関する質的研究  
定時制高等学校の卒業者を事例に  
-----  
松井 理納 (富山県スクールカウンセラー)  
稲垣 応顕 (上越教育大学)

- ▶ P-21 中高生の肯定的再評価力に関する研究 (1) 一因子的不変性の検討  
 -----  
 前 小夏 (北海道医療大学大学院心理科学研究科)  
 藤田 龍 (北海道医療大学大学院心理科学研究科)  
 西塚 拓海 (北海道医療大学大学院心理科学研究科)  
 新川 広樹 (弘前大学教育学部)  
 富家 直明 (北海道医療大学心理科学部)
- ▶ P-22 中高生の肯定的再評価力に関する研究 (2)  
 学校・学年・性差の検討  
 -----  
 藤田 龍 (北海道医療大学大学院心理科学研究科)  
 前 小夏 (北海道医療大学大学院心理科学研究科)  
 西塚 拓海 (北海道医療大学大学院心理科学研究科)  
 新川 広樹 (弘前大学教育学部)  
 富家 直明 (北海道医療大学心理科学部)
- ▶ P-23 自殺対策ゲートキーパー養成研修の効果に関する検討  
 研修会の参加経験による比較  
 -----  
 栗田 智未 (福井大学保健管理センター)
- ▶ P-24 会計年度任用職員 (スクールカウンセラー) の雇用に関する心理  
 -----  
 成澤 佑太 (目白大学心理カウンセリングセンター)
- ▶ P-25 自治体職員へのゲートキーパー研修の効果と対人的自己効力感との関連  
 -----  
 松本 明生 (福山大学人間文化学部)
- ▶ P-26 カウンセラー教育におけるロールプレイの活用方法の検討  
 逐語録を用いた発言量の分析  
 -----  
 和田 仁明 (作新学院大学大学院心理学研究科)  
 田所 摂寿 (作新学院大学人間文化学部)
- ▶ P-27 教師のワーク・ファミリー・バランスとバーンアウト、休職・退職意識との関連  
 -----  
 森本 哲介 (兵庫教育大学学校教育研究科)  
 高橋 誠 (神奈川大学)
- ▶ P-28 教職志望学生のストレスに強い個人特性に関する研究  
 -----  
 吉原 寛 (松本大学人間健康学部)
- ▶ P-29 保護司活動における地域差の比較検討  
 -大都市と地方の事例-  
 -----  
 稲垣千寿恵 (跡見学園女子大学大学院人文科学研究科 臨床心理学専攻)  
 宮崎 圭子 (跡見学園女子大学)

- ▶ P-30 保護司活動における現状の課題と対応策の検討 2  
性差と地域差の比較検討  
-----  
須賀 仁礼 (中央区保護司会 保護司)  
宮崎 圭子 (跡見学園女子大学)
- ▶ P-31 心理職への産後復職を目指したプログラムに関する予備的研究  
-----  
田所 摂寿 (作新学院大学人間文化学部)
- ▶ P-32 第二次構造的解離における拡張版コンテイナー・テクニク (ECT) の適用  
—Apparently Normal Part による代理 ECT の実際—  
-----  
福井 義一 (甲南大学文学部)
- ▶ P-33 自然環境を活用したカウンセリングのメリットとデメリット  
-----  
上原 巖 (東京農業大学)
- ▶ P-34 Negative Capability 概念を導入したアドレリアン・カウンセリングモデルの  
提案  
-----  
浅井 健史 (明治大学)
- ▶ P-35 感情表出トレーニング再考  
-----  
稲垣 応顕 (上越教育大学大学院)  
松井 理納 (富山県スクールカウンセラー)
- ▶ P-36 ひきこもり状態に関する諸外国の研究動向  
-----  
野中 俊介 (武蔵野大学人間科学部)
- ▶ P-37 新型コロナウイルス感染症対策下における友人関係上のストレス対処方略、  
サポート受容、ポジティブな変化との関連  
-----  
飯尾 愛子 (帝京大学文学部)
- ▶ P-38 3つの基本的心理欲求とパッションとの関連  
交差遅延効果モデルによる検討  
-----  
久保 尊洋 (横浜国立大学教育学部)
- ▶ P-39 親のアルコール依存傾向と青年の全般性不安症状との関連  
—家族アイデンティティを含めた検討—  
-----  
菊地 創 (松蔭大学コミュニケーション文化学部)  
富田 拓郎 (中央大学文学部)
- ▶ P-40 Highly Sensitive Person はどのような困難さを経験しているのか  
感覚処理感受性と自己困難認知の関連  
-----  
中山 真 (皇學館大学文学部コミュニケーション学科)

- ▶ P-41 児童期までの自分の写真との接触経験が大学生の自尊感情に与える影響  
 桑原 千明 (文教大学教育学部)  
 菊地 未峰 (宮代町立百間小学校)
- ▶ P-42 被相談場面における若者のメンタルヘルス・ファーストエイド方略と情緒的巻き込まれの恐れ  
 大学生と大学院生を対象として  
 青木 ケイ (筑波大学大学院人間総合科学学術院)
- ▶ P-43 性的指向と関連したポジティブな体験がLGB当事者の幸福感およびセイバーリングに及ぼす影響  
 佐藤 洋輔 (立命館大学)
- ▶ P-44 内部障害者との接触経験と象徴的偏見との関連  
 尾花真梨子 (江戸川大学社会学部)
- ▶ P-45 結婚活動(婚活)に導入された構成的グループエンカウンター(SGE)が参加者の結婚観や人生観に与える影響  
 阿部 美幸 ((株)トータルマリアージュサポート)
- ▶ P-46 自由記述からみた構成的グループ・エンカウンターのプロセスについて  
 —計量的テキスト分析による検討—  
 水野 邦夫 (帝塚山大学心理学部)  
 中地 展生 (帝塚山大学心理学部)
- ▶ P-47 学校におけるアクティブ・ラーニング・アクティビティとその接面  
 —関係学の視点とともに—  
 小沢日美子 (同朋大学社会福祉学部)
- ▶ P-48 中年期と人生の再考(2)  
 —自助グループ「Clubみなしご生まれ天涯孤独」の活動を通して:「生前」「任意後見人」「死後」事務—  
 青木 智子 (平成国際大学法学部)  
 木附 千晶 (文京学院大学)
- ▶ P-49 中年期と人生の再考(3)  
 自助グループ「Clubみなしご生まれ天涯孤独」の活動を通して:伴侶動物(ペット)との関わり  
 木附 千晶 (文京学院大学保健医療技術学部)  
 青木 智子 (平成国際大学)

## 日本カウンセリング学会第 56 回大会後援団体、機関

一般社団法人臨床心理士会

公益財団法人臨床心理士資格認定協会

一般社団法人日本キャリア・カウンセリング学会（旧：一般社団法人日本産業カウンセリング学会）

一般社団法人学校心理士認定運営機構／日本学校心理士会

一般社団法人日本心理学諸学会連合 事務局

日本学校心理学会 学会事務局

一般社団法人 日本スクールカウンセリング推進協議会

## 日本カウンセリング学会第 56 回大会準備委員会委員



- 大会準備委員長：諸富 祥彦（明治大学）
- 大会準備副委員長：伊澤 成男（聖徳大学）
- 大会準備副委員長：井ノ山正文（教育環境研究センター）
- 大会準備事務局長：八島 禎宏（作新学院小学部）
- 大会準備副事務局長：田中 圭（聖徳大学）
- 大会準備委員：益子 洋人（北海商科大学）
- 大会準備委員：三好 真人（常葉大学教育学部）
- 大会準備委員：太田智佐子（明治大学心理臨床センター）
- 大会準備委員：小松 賢亮（和光大学）
- 大会準備支援委員長：笈田 育子（NPO 法人カウンセリング教育サポートセンター）



一般社団法人日本カウンセリング学会第 56 回大会事務局  
E-mail : cou56meiji@gmail.com